

教科(科目)	水産(海洋環境)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(海洋創造コース)
使用教科書	文部科学省著作 海文堂出版(株)発行 『海洋環境』				
副教材等	なし				

1 学習目標

海洋や陸水の環境保全に関する基礎的な知識と技術を習得し、自然と共生した豊かな沿岸域の開発・整備事業のあり方を生徒が自ら考える態度を養う。
本県の水産業および沿岸域の社会基盤の整備・維持・管理に貢献する能力と態度を身に付けることを目指す。

2 指導の重点

温暖化による地球規模の異常気象や海面上昇などの環境変化は、海洋にとどまらず陸域の環境に対しても直接的に影響を及ぼしています。また、海洋工事や栽培漁業などの開発行為は、海洋環境の変化と深く結び付いています。このことを踏まえ、

- ①海洋環境に対する関心を高め、環境を改善し、管理することの必要性を理解することを目指します。
- ②海洋や陸水の環境構造や環境保全に役立つ基礎的な知識や技術の習得を目指します。
- ③水生生物の生育環境を保全し、水産資源の維持や持続可能な海洋開発を行う必要性を理解することを目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	○海洋環境管理の概要	○地球環境における海洋の役割 ○海洋環境問題の歴史 ○海洋環境管理の将来展望	○地球規模の環境変化の現状を知り、海洋が地球環境に果たす役割を理解する。 ○海洋が抱える環境問題について考えを深める。	4	○授業への取組 ○提出物の内容および期限順守
5	○海洋環境の保全(1学期中間考査)	○海の構造 ○海底の地形	○海洋の構造および化学的・物理的な特徴を理解する。	22	○定期考査 ○まとめテスト ○自己評価
6		○プレートと地震 ○海水の性質	○海洋と沿岸域の地形の特徴を理解する。		
7	(1学期期末考査)	○沿岸の地形 ○海水の運動			
8	○環境調査	○海洋環境の調査方法(気象・海象・水質・底質)	○海洋の調査・観測の方法について基本的な内容と手順を理解する。	14	
9					
10	(2学期中間考査)				
11	○地球環境の変化	○気候変動と環境問題	○地球規模の環境破壊の進行について理解し、考えを深める。	12	
12	(2学期期末考査)	○地球温暖化 ○海洋汚染の現状 ○陸水環境の保全	○水の循環と人間の生産活動との関係性について理解し、考えを深める。		
1		○河川 ○水の循環 ○上下水道施設			
2	○海洋環境等関係法規	○国際条約 ○我が国の環境に関する主な法律	○海洋環境保に関する法律について理解する。	12	
3	(3学期期末考査)				

計 64 時間(55分授業)

4 課題・提出物等

○各單元ごとにワークシートやレポートの提出を指示することがあります。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○海洋や陸水の環境に強い関心を持ち、意欲的に課題を探求する態度が身に付いている。 ○自らの生活行動と海洋環境との関連について考えを深めようとしている。	○海洋環境が抱える諸問題に関心を持ち、様々な課題を総合的・多面的にとらえ、自然環境の現状について考察し表現することができる。 ○環境問題の原因や背景と人間の生活行動との関連をとらえ、海洋環境に対する自らの責任を自覚し適切に判断することができる。	○海洋の調査・観測の方法について基本的な内容と手順を理解し、観測器具の操作を的確に行うことができる。	○海洋の環境要因について基礎的な知識を持ち、問題点を理解している。 ○自然環境が抱える課題を分析するための調査・観測の方法に関する基礎的な知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ○授業への取組(授業態度，出席状況，発表や討議の様子，学習活動への参加状況など) ○提出物(ワークシート・レポート)の内容および期限の順守 ○定期考査 ○まとめテスト ○自己評価 などから，総合的に判断します。			

6 担当者からの一言

自然環境の保全と人間生活との関係を理解し、人間と自然とが共生できる豊かな生活環境を守り続けるために自然環境が抱える問題点を見出し、解決するために必要な環境保全のあり方や海洋空間の開発・利用のための技術を学ぶ科目です。学習活動を通じて、環境保全や海洋開発の基本的な事ごらを覚え、本県の水産業および沿岸域の社会基盤の整備・維持・管理に貢献する能力と態度を身に付けるために2年間努力しましょう。

(担当：下越 貴大)